

10 本時の目標

○作品を味わうことを通して、作者のものの見方や生き方について話し合っ、考える。

11 本時の展開 (10/11)

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎個に応じた指導 ☆活用力の育成	教材・教具	評価 【観点】◇評価規準<評価方法>
導入	1 本時のめあてと学習の進め方を示す。	一斉	・めあてと学習の進め方を知る。	○学習の進め方を知らせ、1時間の学習の見通しをもたせる。	学習のあしあと	
	作者が「やまなし」に込めた思いを読み取ろう。					
展開	2 児童の読みをもとにした話合いをさせる。	一斉	・「五月」と「十二月」を比べて自分が感じたことを出し合う。	○「五月」と「十二月」の谷川の様子が一番違うことは何なのかを考えさせる。 ◎谷川の様子の違いが分かりにくい児童には、かにかの子どもたちの会話文から考えさせる。 ○「十二月」に出てくるやまなしが、かにかの親子にもたらしたものについて想起させる。 ◎「十二月」にだけ出てくるやまなしが題になっている理由が分かりにくい児童には、「五月」のかわせみがもたらしたものと対比させる。 ☆資料「イーハトーヴの夢」の作者のものの見方や生き方と「やまなし」の世界と共通するものに視点を当て、書きまとめられるようにする。 ◎命について書きまとめている児童には、やまなしが単なる実ではなく、作者の表現したい世界が表れているものとしてとらえさせる。	ノート やまなし かわせみ 宮沢賢治 の写真  フラッシュ カード	【読む能力】 ◇「やまなし」に表れている作者のものの見方や生き方を読んでいる。 <発言・ノート>
	3 作者が伝えたかったことについて書きまとめさせる。	個別	・作者の生き方と「やまなし」と共通するものについて考える。	◎「十二月」にだけ出てくるやまなしが題になっている理由が分かりにくい児童には、「五月」のかわせみがもたらしたものと対比させる。 ☆資料「イーハトーヴの夢」の作者のものの見方や生き方と「やまなし」の世界と共通するものに視点を当て、書きまとめられるようにする。 ◎命について書きまとめている児童には、やまなしが単なる実ではなく、作者の表現したい世界が表れているものとしてとらえさせる。		なぜ、「やまなし」という題名をつけたのだろう。
まとめ	4 話合いをさせる。	一斉	・書きまとめたことをもとに話し合う。	○やまなしの実や小さな小川の世界に込められた作者の思いについても話し合わせる。 ☆自分の考えを理由を示しながら伝えることができるようにする。		十分に満足できると判断される状況 ・作者が「やまなし」に込めたものの見方や命のとらえ方について読み深めている。
	5 振り返りをさせる。	一斉	・本時の学習の振り返りをする。	○「どんな考えがどう深まったのか」具体的に振り返らせる。		
	6 次時の予告をする。		・次時の学習の見通しをもつ。	○学習を通して学んだことを「あとがき」に書きまとめることを予告する。		

本時の流れへ